

2025年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

- 報告書の総評における意見、課題を抜き出して小項目に分けた。
- 2025年度報告書における意見・課題は新規課題か継続課題かを振り分け、担当している部門を明記した。
新規の担当は、継続課題との関連と意見・課題の内容と部署の関連性から記載した。
- 新規課題にはアンダーラインを引いて掲載した。

※1:2024年度の意見・課題への取り組み(年度末点検)をもとに、2025年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み(2026年度活動)の進め方
 ※2:年度末点検は次年度第1回学校関係者評価委員会に報告予定。

➡改訂版「専修学校における学校評価ガイドライン」

大項目	小項目	2025年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)学生確保と学科ラインナップの検討	○魅力のあるカリキュラムと高い教育実績が募集に結びつく。そのような好循環を生み出す施策について、検討を重ねていただきたい。	継続	校長	■カリキュラムについて、①授業アンケート(低位評価の確認)、②学科長面談(訴求点の確認)、③入学者アンケート及び④担任面談等を活用し、入学者の入学ポイントを明確化し、そこに向けた広報展開を行う。 ①～④までを学科長と確認していく。
2 教育課程、教育の実施、学修成果	1. 教育課程の編成と授業科目	○ <u>現場でコミュニケーションを取れる人をいかに育成するかが専門学校の教育の鍵となるため、在学中に身につけられえるようにしてほしい。(2025年度総評)</u>	新規	医療秘書科	■挨拶がすべての基本であることを折に触れて学生に伝える。 ■ホスピタリティ、秘書実務、病院受付実務などの実践的な授業を通して、対人応対力を身につけ、誰もが持っている“思いやり”をかたちにする事の大切さを体感させる。
			新規	医療事務IT科	■授業や実習指導において、学生同士や教員とのコミュニケーションの機会を意識的に設け、相手の話を聞く姿勢や適切な受け答えを身につけられるよう指導している。今後も、実習や就職後を見据え、現場で円滑にコミュニケーションを取れる力の育成に取り組んでいく。
			新規	診療情報管理科	■授業や実習指導において、学生同士や教員とのコミュニケーションの機会を意識的に設け、相手の話を聞く姿勢や適切な受け答えを身につけられるよう指導している。今後も、実習や就職後を見据え、現場で円滑にコミュニケーションを取れる力の育成に取り組んでいく。
			新規	くすり・調剤事務科	■各授業の状況に合わせペアワークやグループワークを段階的に取り入れ、他者とのコミュニケーションや意見交換ができるように授業担当教員に依頼している。 ■より実践的な知識を身に付けることを目的として、実際のお客様対応を想定したロールプレイングやケーススタディーを実施している。
			新規	ビジネスコミュニケーション科	■実践的なコミュニケーション能力の育成 授業内での会話・発表・グループワーク・ロールプレイ等を取り入れ、実際の職場を想定したコミュニケーション力を段階的に身につけられる教育を実施する。 ■学校内外日本人・留学生との交流機会の充実 学校内外の学生との交流や共同活動を通して、多様な相手と関わりながら、相手の立場を理解し、自分の考えを伝える力を育成する。 ■就職後を見据えた実践教育の強化 ビジネスマナーや敬語だけでなく、報告・連絡・相談、職場での適切な受け答えなど、就職後に必要となる実践的なコミュニケーション能力を授業・行事等を通して育成する
			新規	介護福祉科	■外国人留学生については、特別授業「介護の日本語」で読む・聞く・話す能力の開発を重点課題とし、2026年4月から毎週1回開講(対象:1・2年生希望者)を初めている。 ■学科ディプロマポリシーを達成するためには、コミュニケーション実践力が伴わなければ上手いいかない。そのためのカリキュラム構成となっている。各授業は専門的な技術と知識の修得を目指すとともに、学生の「基本的自己信頼感」が増すよう、専任・兼任教員の連携を更に密にして個別学習支援を進めていく。
			新規	看護科	■臨地実習での患者・実習指導者をはじめ様々な機会を通して学びの場を設けている。また、臨地実習に行く前にオリエンテーションの時間を十分に設けて臨地に取り組めるようにしている。また、実習評価において学生自身の自己評価と教員による評価により課題を見出しながら取り組めるようにしている

大項目	小項目	2025年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1
	4. 学習成果目標の達成状況	○資格・検定取得は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	医療秘書科	■日々の授業が検定合格につながることを学生に周知し、一つひとつの授業を大切にすることを身につけるよう指導する。 ■検定取得という成功体験の積み重ねが、将来の自分につながるイメージができるような指導をする。
			継続	医療事務IT科	■資格・検定の取得を学科教育の重要な目標として位置づけ、授業と試験対策を連動させた指導している。学生一人ひとりの習熟度を把握し、補講や個別指導等も取り入れながら合格率の向上に努めている。今後も資格取得の実績を本校・学科の強みとして発信できるよう、継続して取り組んでいく。
			継続	診療情報管理科	■資格・検定の取得を学科教育の重要な目標として位置づけ、授業と試験対策を連動させた指導している。学生一人ひとりの習熟度を把握し、補講や個別指導等も取り入れながら合格率の向上に努めている。今後も資格取得の実績を本校・学科の強みとして発信できるよう、継続して取り組んでいく。
			継続	くすり・調剤事務科	■学科が目標として掲げている資格や、さらに上位級に挑戦するように動機づけを行っている。 ■学生が自身の成長や苦手な箇所を認識できるように問題演習の点数を継続的に計測し、その結果に基づいたアドバイスを実施している。 ■昨年度より資格試験の受験時期に合わせ、集中して授業を実施するようにカリキュラムを変更した。特に登録販売者試験の受験時期を2年生から1年生へ変更し、合格率を高めることに成功した。
			新規	ビジネスコミュニケーション科	■資格・検定取得を意識した体系的な学習支援 JLPT等の日本語資格をはじめ、ビジネス分野の資格・検定取得を目標に設定し、授業と連動した計画的な対策を実施する。(補講、集中講座等開催) ■学生一人ひとりの学習状況に応じた指導の充実 定期的な確認テストや学習状況の把握を行い、学生の習熟度に応じた補習・個別指導等を実施し、資格・検定の合格率向上を図る。 ■取得実績の蓄積と教育成果の可視化 資格・検定の取得状況や合格実績を継続的に把握・分析し、教育内容の改善につなげるとともに、本学科の教育成果・強みとして発信できるよう取り組む
			継続	介護福祉科	■外国人留学生の国家資格取得率は、養成校全国平均の2倍以上であったが、日本人学生の合格率は養成校平均を下回った。2026年度は外国人留学生が3倍に増えたが合格率80%以上を目指し、1年生は5月、2年生は4月から「介護の日本語」能力の向上に努めている。日本人学生は合格率100%を目指す。モチベーションを維持できるよう個別の学習支援を継続していく。
3 学生の受入れ学生支援	1. 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	○安定した入学者数を確保するために、教職員の英知を結集して取り組んでほしい。(2025年度総評)	新規	校長	■これまでの募集スタイルは限界である。また新たな訴求点としてオンラインの活用が必要と考えている。この取組を推進していく。また新しい視点の広報活動(外部かつ専門人材の活用)が必要であり、外部人材の活用をはかっていく。
			新規	広報室	■学科の特長やアピールポイントを改めて確認し、学科と連携して各種広報物や高校ガイダンス、オープンキャンパス等に反映する。また、オープンキャンパスにおいては前年度の振り返りを行い、改善点を明確にして取り組み、出願率を上げて入学者の確保に努める。
	4. 学生生活に関する支援	○入学生の変化に合わせて、学校全体で学生を支えている。今後も丁寧なサポートを期待している。(2025年度総評)	新規	校長	■引き続き、学生の自立を促しながら、丁寧な学生サポートを行っていくように学校全体として取り組んでいく。

大項目	小項目	2025年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1
				学生委員会	■相談予約のプロセスをデジタル化。属人的なエラーが軽減できることで、相談室利用の安心感と利便性を高めた。3人のカウンセラーを継続配置し、学生のニーズに応えられる環境を維持している。また「静かに学べる個室学習室」の常設も継続している。守秘義務を担保するためにも、クラス担任とカンセラーの連携を強化。各学科長と学生委員長がバックアップすることで、相談支援体制の質を担保している。
6 教育活動の基盤と改善・向上の取組	4. 社会からの理解と情報の公表	○業界企業・業界団体・学校の三方による協力および連携強化に向けて取り組んでほしい。 (2025年度総評)	新規	医療秘書科	■教育課程編成委員会や実習、授業などを通して、医療機関、医療系企業の方々からのご意見を頂戴し、学生指導、カリキュラム編成に活かしていく。
			新規	医療事務IT科	■医療機関等との実習や意見交換を通じて、業界のニーズや現場の状況を把握し、教育内容の改善に活用している。今後も、業界企業・団体との情報共有や連携を積極的に進め、現場の求める人材育成につなげていく。
			新規	診療情報管理科	■医療機関等との実習や意見交換を通じて、業界のニーズや現場の状況を把握し、教育内容の改善に活用している。今後も、業界企業・団体との情報共有や連携を積極的に進め、現場の求める人材育成につなげていく。
			新規	くすり・調剤事務科	■実習や教育課程編成委員会などを通じて関係者の方々から意見を頂戴し、カリキュラムや学生指導に反映させている。
			新規	ビジネスコミュニケーション科	■業界・企業との連携機会の拡充 業界企業との情報交換や交流の機会を設け、業界が求める人材像や必要な知識・スキルを把握し、教育内容の充実につなげる。 ■業界団体・企業との協力体制の構築 業界団体や企業との連携を進め、講演・職業理解・就職支援等への協力を得ながら、学生が実社会を意識して学べる機会を充実させる。 ■三者連携による教育・就職支援の強化 学校・企業・業界団体の意見や情報を教育活動に反映し、社会のニーズに対応した人材育成と就職支援につなげる。
			新規	介護福祉科	■介護AI・ICT関連企業との連携を強化し、通常の学習活動に反映させていく。外国人留学生の介護福祉士養成と日本人学生の養成を整理した上で、現場のニーズに応えられる学習体系を構築する。具体的には、「介護福祉ゼミⅠ・Ⅱ」を当該学習の機会と位置付け、介護の現場・職能団体・養成校でコラボレーション授業を行う。
			新規	看護科	■実習施設との連携は重要であり、各実習前・中・後の連絡調整を継続しながら取り組んでいる。個々の学生の指導においても助言を受けながら指導を実施している。特に新規の実習施設も多く、他の実習の場での状況なども情報共有出来るように実習協議会の参加の協力を得ながら取り組んでいる。